D 126　各種市販衣料用防虫剤の防虫効果

文化女大家政　○土橋明美　林　雅子

目的　現在、衣料用防虫剤として市販されているパラジクロルベンゼン系（２種）ナフタリン系（１種）樟脳系（１種）ピレスロイド系（４種）の各防虫剤の実用的防虫効果を比較検討した。

方法　Al箔で裏打ちしたボール紙製１５ℓ洋服箱（34.5×55×8 cm^3）に、衣類として羊毛布（JIS染色堅ろう度試験用添付白布）1、4 kg（容器容積の８割）を入れ、２８±２℃，５０±５％ＲＨで保管した。この時、３cm角の食害実験用羊毛布（JIS添付白布）および繊維害虫（ヒメカツオブシムシまたはイガ）幼虫１０匹を入れた直径４cmの金網籠（茶コシメッシュ）を洋服箱衣類の上・中・下段に置き、防虫剤を衣類上段中央に置いて、密封した。各防虫剤は、それぞれの表示標準使用量および表示された使用法を基準にして用いた。一週間毎に、虫の致死率と実験布の食害量とを求めて、実用的な防虫効果を比較検討した。

結果　表示に従った使用法（標準使用量、和紙類包装など）では、いずれの繊維害虫においても防虫効果は、パラジクロルベンゼン製品＞ナフタリン製品＞樟脳製品＞ピレスロイド系製品の順であった。ピレスロイド系防虫剤では、とくに食害量が甚だしく（ヒメカツオブシムシ；34、6～63、8mg／100mg，イガ；13、1～20、3mg／100mg）、表示使用量・使用法では実用的な防虫効果は殆どなかった。この点につき使用量・使用法等の条件を引きつづき検討している。